

トトロ通信

NO. 106

2022年9月号津山・きびの会通信

〒708-0863 津山市小桁 137-2

TEL 0868-23-0085

川島宅 23-3294、090-7541-5263

KHJ ピアサポートフェスティバルin高知に参加して

高知県では全国に先駆けて「高知ひきこもりピアサポートセンター」が開設されています。3年前から計画されていた大会がコロナ社会で延期を余儀なくされ、今回の開催は、全国の居場所に集まる方達の思いを1つにした発信の場であったと思います。北海道・東北・関東・中国・四国・九州と全国からの居場所に集う人（居場所人・いばじん）が8月6日・7日高知会館と県民文化ホールに各地の思いを持ち寄りしました。開催地に1番近い私たちが、長い時間をかけて、たどり着いたことを皆さんが大歓迎してくれました。初日のトークショー「ピアでつながるって何だろう？」では、各地のピアがそれぞれの出会いや、今の思いを

語りました。地元高知では、様々な分野の方々がピアとなり行政の担当者、精神科の先生は、詐欺にあったと言いながらも出会いつながり語り寸劇の披露までされ、隔たりのない人と人とのつながりの心地よさを会場に満たしてくれました。2日目のトークショーでは、池上正樹さん・つきゆびさん・楠永さんの3人で「自分自身とピアになるには？」をテーマに語り、参加者のそれぞれがかなり深い自己を見つめる時間となりました。この日は、マルシェ・作品展示場・ひきこもり大学・WRAP・対話・リラックスの各部屋があり、私はリラックスの部屋で楠永さんから整体の施術を受けて疲れをいやし、かいぞうさんは、対話の部屋で皆さんに自分の思いを伝えていました。

今回の参加の目的は、懐かしい皆さんと再会すること高知ピアサポートセンターを見学することとしていました。センターでは、ピアの皆さんが輝いていました。農業をする人・百合の花づくりを手伝う人・スプレーアートで個性を発揮する人・当番でピアサポート相談にのる人大きなエネルギーを感じ元気になる私を見つけた3日間でした。

川島 和子

隠れひきこもり

皆さんはひきこもりと聞くとどんなことをイメージしますか？

自室から出てこない・・・

家族以外の人と話さない・・・

家族とも余り話さない・・・

昼夜逆転生活・・・等々色々、思い浮かぶとおもいます。

それでは皆さんは、隠れひきこもりの人がいることを知っていますか？

隠れひきこもりとは・・・家族の誰にも知られないように（一見普通の）生活をする。

買い物、子供の学校行事、その他用事があれば外出する、人と会う・・・

そう言うことが出来ればひきこもりと言わないのでは？普通ならそう考えますよね？！

けれど、日常生活を同じように送っていたとしても・・・家族のいない日・・・出来るだけ人に会いたくない、他人の声を聴きたくない、他人が怖い・・・等々

家族が出かけた後部屋のカーテンを閉め、電話の音も鳴らない、聞こえないようにしてひたすら部屋に籠る・・・

そして家族が返ってくる時間、何事もなかった様に振る舞う。心の中は孤独・・・家族とも必要最小限の会話。そのような人がいることを皆さんは知っていますか？

私は実際に隠れひきこもりでした。もしかしたら今もそうかも知れません。全国でひきこもりの調査をしていますが、隠れひきこもりの事は問題視されていないでしょう。誰にも相談できず、一人で抱え込んで苦しんでいる人達のいることを。

私はそんな人達の心に寄り添えるようなピアサポーターになりたい。

葉廣 由美子